

建物の復元に向けて

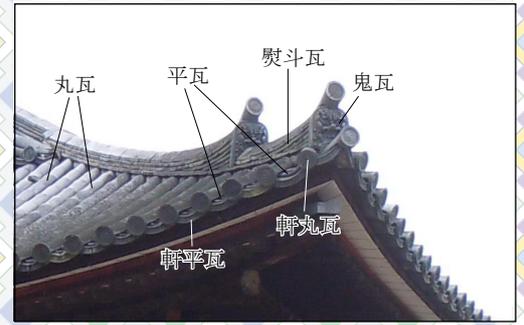
建物の部材

柳之御所遺跡の豊富な出土品の中には、建築に関連すると推定される木製の部材や土壁片、金具類、瓦などがあります。これらの建築部材は、遺跡にどのような建物が建てられていたかを知る直接的な手掛かりとなります。これらの資料を参考としながら、中心建物のCGや模型の製作を行い、建物の復元を進めています。

これらの建築部材の用途を特定出来るものは限られています。現在、分かっているものは、屋根葺き板、破風板、格子、柱、懸魚などです。屋根葺き板や破風板など長大なものが多く、当時の建物の規模がうかがえます。用途がわからない部材にも特徴的な構造のものが多く、より具体的に建物が復元できる材料として検討を進めています。

屋根瓦

瓦は柳之御所遺跡では出土が少なく、総瓦葺きの建物は多くなかったことが分かっています。しかし、同時期の東北地方では平泉以外に瓦の出土はほとんどなく、とても貴重な資料です。平泉でも瓦が出土するのは柳之御所遺跡のほかには中尊寺などに限られます。瓦の多くは町内の志羅山地区で生産されたと考えています。このほかに建物の壁材料である土壁が、焼けた状態で416kg出土しています。全国的に見ても、これだけの土壁が出土している遺跡は少なく、当時の建物の壁材料を推定する上で重要な資料です。



瓦の名称



瓦



建築部材

建物のCG復元

西の建物は、約11m×14mの大きさで、建物の位置や柱規模から東の建物より格が高いと考えられます。このため、貴族や高僧などの客人を迎えるの儀式が行われたと想定しています。東の建物は、南北の長さが25mもある長大な建物跡です。武家的な儀式の場として使われたと考えています。

復元では、御簾や部などを用いて開放的な西の建物に対して、土壁など閉鎖的な東の建物として設計しています。



西の建物



東の建物